

令和7年度 地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	ふくしま けんいちろう	
氏名	福島 健一郎	
所属・役職	一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事 アイパブリッシング株式会社 代表取締役 オープンデータ伝道師	
活動拠点	全国	
略歴	1996 年 3 月 北陸先端科学技術大学院大学情報科学科 博士前期課程修了 1996 年 4 月 株式会社沖北陸システム開発 入社（その後、沖通信システム株式会社と統合） 2008 年 6 月 沖通信システム株式会社 退社 2009 年 4 月 アイパブリッシング有限責任事業組合 設立 2011 年 5 月 アイパブリッシング株式会社 設立 代表取締役就任（現職） 2013 年 5 月 Code for Kanazawa 設立 2014 年 2 月 （一社）コード・フォー・カナザワ 設立 代表理事就任（現職） 2014 年 9 月 （一社）学術資源リポジトリ協議会 設立 理事就任 2019 年 4 月 内閣官房オープンデータ伝道師 2019 年 4 月 総務省地域情報化アドバイザー 2019 年 5 月 （一社）シビックテックジャパン 設立 代表理事就任 2021 年 12 月 沖縄県 DX 分野別アドバイザー（行政分野） 2022 年 4 月 デジタル庁オープンデータ伝道師 2023 年 4 月 石川県デジタル政策アドバイザー 2025 年 3 月 総務省経営財務マネジメント強化事業アドバイザー（DX 関係）	
地域情報化の 専門分野・技術	【オープンデータ、データ利活用】 2011 年頃からオープンデータ推進に力を入れていて、データの整備の仕方、データ連携基盤の仕組みなど助言可能です。（一社）コード・フォー・カナザワとしての活動の経験をもとに、市民目線における行政データの利活用についてアドバイス可能です。また、デジタル庁のオープンデータ伝道師も務めています。 【市民協働、官民連携】 シビックテックという活動を通して市民と行政の連携という点では経験も長く、ワークショップのやり方やその後の市民との連携の仕方も含めてお手伝いできます。 【スマートシティ、地域 DX】	

		データ連携基盤の構築、その基盤を活用したデータ利活用や民間の参加に関してのサービス設計の経験があります。
専門分野		オープンデータ EBPM（エビデンスに基づく政策立案） AI 活用 生成 AI 活用 計画策定支援（地域情報化計画・官民データ計画・自治体 DX 推進計画等） 人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 行政手続オンライン化 デジタルデバйд対策 防災 教育情報化／情報教育 デジタルアーカイブ／図書館 働き方 子育て テレワーク 地域ビジネス スタートアップ支援（起業支援） 観光 個人情報保護 スマートシティ ICT 活用広報 プロジェクトマネジメント支援 その他
自治体向けメッセージ		長く ICT 分野に身を置きながら技術を社会に実装していくことで、社会や地域の課題を解決できないかと取り組んできました。ICT は道具でしかないと、この便利な道具をいかに行政と地域に利活用するかをお手伝いできたらと思います。 これからは各地域の方々が主体的に取り組む時代だと思っていますので、そういう地域の方々と手を取り合ってやっていきたいと思っています。 フィールドは石川県内を中心とした北陸と沖縄を中心にしてはいますが、全国どこでもご対応できます。
関連サイト		https://www.ipublishing.jp/ https://codeforkanazawa.org/
地域情報化に関する実績	これまでの経験業務・研究活動 これまでに 関与した地	【地域情報化システム】 【オープンデータ、データ利活用】 ・石川県内、沖縄県内にてオープンデータ啓蒙と利活用の教育を実施 ・石川県内、沖縄県内自治体に複数回にわたってデータ利活用セミナーを実施 ・県内外の図書館や美術館、博物館、資料館のオープンデータ化プロジェクトに参加し、データ利活用も推進 ・日本初の Japan Open Science Summit2018 の運営にも参画 ・石川県内の複数の自治体に市民向けアプリや観光アプリ、子育て支援アプリなどを開発/構築/運用 ・県内自治体の新しい庁内システムのサービス開発/構築/運用 ・当事者参画型災害備えシステムの企画設計/開発/構築をし、県内外で実証実験 【市民協働、官民連携】 ・全国各地で（東北から沖縄まで）毎年 20 回程度のシビックテックやオープンデータについて講演やイベント設計/ファシリテーション ・Code for Kanazawa としてメンバーと一緒に毎月のミートアップを実施し、行政と市民の垣根を越えて様々なテーマについて議論する場を構築 ・年にアイデアソンとハッカソンを 5 回程度実施 ・金沢市主催のシビックテックサミットの企画や運営について協働して実施 ・テクノロジーを活用した市民協働とも言えるシビックテックについて研究活動も実施し、ブログなどで報告 【スマートシティ】 ・沖縄県でのデータ連携基盤構築の委員や実装に関する助言など ・その他、全国で地域の DX 化に関して市民や企業の参画を促す方法についても助言 【令和元年～現在まで】

域情報化に関するプロジェクト	・ VLED データ運用検討分科会委員 ・ 沖縄県万国津梁会議 稼ぐ力検討委員会委員（主に県外からの視点） ・ 沖縄県行政分野 DX アドバイザー ・ 金沢シビックテック推進協議会会長 ・ 金沢市 IMAGINE KANAZAWA 2030 推進会議委員（SDGs 推進） ・ 金沢市新産業創出支援アドバイザー（新産業創出について提言） ・ 金沢市 DX 会議委員（金沢市の DX 化を推進） ・ 金沢市 IT ビジネスプラザ武蔵交流・創造推進事業運営委員会ディレクター ・ 金沢市デジタルミュージアム構築検討委員会委員 ・ 金沢市市民活動サポートセンター運営会議委員（主に情報化の視点から） ・ 宜野湾市振興計画審議会委員 ・ 石川地域づくり協会コーディネーター（主に情報化の視点から） ・ 内灘町第六次総合計画審議会委員 ・ 内灘町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員 ・ 内灘町デジタル・トランスフォーメーション推進委員会委員 ・ 内灘町産業支援センター運営アドバイザー ・ 中能登町まち・ひと・しごと創生有識者会議委員 【平成 30 年度】 ・ 総務省「オープンデータを推進する地方公共団体職員の人材育成等に関する実証」事業において地域メンターとしてオープンデータの研修講師などを担当 ・ 総務省「テレワークデイズ」参加 ・ 経産省「新公共サービス検討会」メンバーとして新しい市民協働の形や経済との関連について議論 ・ 共通語彙基盤（IMI）パートナーとして食/農分野と環境分野における IMI を検討 ・ 国連大学 サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットと協働で石川県や金沢市などにおける SDGs を推進（特に情報化の利活用を重点的に） ・ 国立情報学研究所共同研究「ブレインストーミングによる『研究室データ』のオープン化に資するデータリポジトリ運用モデルと学術情報基盤の検討」に参画 ・ 金沢市道路雪害対策検討委員会委員（主に情報化の視点から） 【平成 29 年度】 ・ 一般財団法人地域活性化センター主催のオープンデータ講習において講師・公益財団法人全国市町村研修財団主催の「グローバルな視点で地域経営を学ぶ～多様な主体との連携による地域課題の解決～」研修にてシビックテックの講師 ・ 金沢市新金沢市広報基本戦略検討委員会委員（主に情報化の視点から） ・ 金沢市市民活動サポートセンター整備検討懇話会委員（主に情報化の視点から）
-----------------------	---